

許文龍氏を悼む

台湾のメディアから、許文龍氏が昨年11月18日に逝去したとの報道がありました。95歳。許文龍氏制作の胸像2体を当館にご寄贈いただくとともに、ご来館もいただいております。謹んでご冥福をお祈り致します。

1928年、台南生まれ。1960年、樹脂メーカーの「奇美実業」を設立、同社を世界的な樹脂メーカーに育てた。知日派として知られ、国民党の李登輝政権や民主進歩党（民進党）の陳水扁政権下で国策顧問や相談役を務めた。2011年の東日本大震災の際には多額の義援金を贈った。2013年、日台間の経済関係の強化に貢献したとして旭日中綬章を受章した。新渡戸稲造、後藤新平の功績をたたえ、新渡戸らの胸像を本県の関係団体、記念館、学校などに寄贈した。（台北共同）



【1928年～2023年】

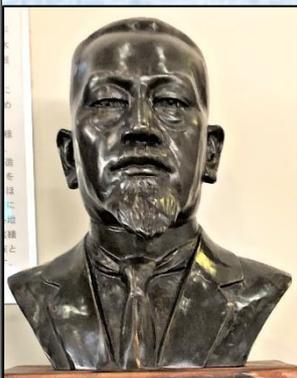
（令和5年11月19日岩手日報掲載）



【奇美博物館】 西洋絵画、彫刻、楽器、兵器、動物標本など多種多様なコレクションを有する総合博物館

【後藤新平胸像】

後藤新平先生は台湾総督府民政長官として施政にあたり、「生物学原則」の科学的方法で旧慣調査を行い、それに基づいて台湾の社会に適した法律を制定し法治の基礎を確立しました。又、上下水道を整備し衛生環境の改善により住民の平均寿命は大幅に延び、教育を普及して民智を啓蒙し、水利・灌漑・道路・鉄道・港



湾・郵便・電信等、経済発展と工業化に必要な基盤をつくりました。私が後藤新平先生の胸像をつくったのは、その功績に感謝の念を表し、台湾の人達にも知ってもらいたいためです。加えて、（中略）台湾の近代化と今日の繁栄に貢献した多くの先達の輝かしい業績の過去に対する事実を思い起こしてもらいたいためです。

（1999年2月吉日 許文龍 誌す）

【浜野弥四郎胸像】

浜野弥四郎は千葉県佐倉人です。明治29年7月、帝国大学工科大学土木工学科を卒業すると共に恩師バルトンに従い台湾に渡り、総督府に奉職しました。



爾来、大正8年4月に退職するまでの23歳を通じ、都市の医師として、同地の衛生施設の計画と建設に尽力しました。就中、台南水道の策計は最も心血を注いだ事業で、11星霜の歳月を経て完成されました。ここに至って瘴癘の地は楽土と化し、台湾の近代化はその礎が築かれたのです。台南が事業発祥の地である奇美文化基金会は、技師の偉業を称え、創業者許文龍自らの手によって創作された粘土原型から鑄造した銅像を贈呈し、併せて技師の偉業を誌します。

（奇美文化基金会：2008年6月吉日）

【許文龍氏来館】1999年（平成11年）6月27日



【岩手日報掲載写真】

この日、許さん夫妻と家族、後藤新平の孫の健蔵さん夫妻が水沢を訪れ、後藤市長らとの歓迎会の後、新平の生家と当館を見学しました。この胸像は、もともと許さんが健蔵さんに贈ったもので、一年前の8月、健蔵さんから当館に寄贈されたものです。

許さんは「資料が整理されており、大変嬉しい。後藤新平は台湾の文化を尊重しながら近代化に尽力した人物。その仕事の進め方に私は感銘を受けた。台湾での後藤新平の評価は日本より高い」と語りました。

健蔵さんも「胸像を収めた様子を見ていただくことができた。新平が情熱を傾けていた鉄道広軌化の新幹線に乗ってこれからも気軽に来て下さい」と話していた。